



## 『受胎』

受胎は、死に続く道への一步で  
呼吸は、永遠に続く魂の転生を  
暗示するものなのではないでしょうか

私たちの肉体は、天国への  
乗り物なのではないでしょうか

生と死の存在は、完全に両輪となり  
区別さえできないのでしょうか

何年も  
答えを捜し求めた後に  
一つの結論が明確になる

私たちは、ゆっくりと呼吸し  
いまだ経験のない  
すでに目の前にある死を  
受け入れるのでしょうか

なぜなら、  
死は昔い仲間だから  
恐れは少しもありません。

- 玲亜:** この詩は不確実性であふれているようにみえます。
- ミン:** それでいいんだよ。狂信者だけが疑念を持たないのですから。私たちが全ての信念に疑問を抱くのは、当然でしょう。
- ティン:** 多分、疑いすぎて身動きがとれなくなってしまうのでしょうかね。しかし、疑問ばかり抱いては何も行動できません。そして疑問ばかり呈しているのは臆病者の印です。
- ミン:** バランスは、必要ではありませんか。確かに、何にも疑問を持たないのは愚かなことだよ。しかし、すべての事に際限なく疑問を持つのも、馬鹿げています。
- ティム:** あーあ、分析ってとても退屈！それにイライラさせられるよ！

### - T Newfields

(和訳: 神谷卓代、keeze、jazz、あすのせかい、Shousuke、槌谷メリッサ、吉田典子と Teresa)

開始: 2001年名古屋市 ♪ 完成: 2017横浜市

